



→晴天に恵まれて江戸川の穏やか。渡し舟も気持ちよさそうに行く。

←矢切の渡しにある竹藪に真竹のタケノコが生えてきた。連日のように人がタケノコを採りにやって来る。下の写真がタケノコ。



今日もよく晴れた。しかも空気はさわやかで、あまり暑くもなく寒くもない。昨日も今日も、朝方などは毛布一枚では寒いくらいの天候だった。

矢切の渡しではいまタケノコ泥棒とはいわないがタケノコ採りの人があいついでやって来ている。

五月三十一日には和服生地 of 洋服を着た七十代だろうか、白髪まじりのあご髭を生やした男性が、自転車で乗りつけ、プレイ中のゴルフ場のほうの竹藪にはいつて行こうとして舟頭さんに注意された。

「お客さん、そっちはダメだよ。ゴルフボールが当たったらケガをするよ。そっちじゃなく、このしもの竹藪で採ったらいいんじゃないの」

そういと男は、なにもいわずにしもの竹藪にはいつて行った。

「一昨日も二人連れがやって来て竹藪にはいつてタケノコを採って行ったばかりなんだよなア」

そういつて舟頭さんは、

「お客さんが多くないときならいいけど、あんまりおおっぴらに採られても」

今週のクマ

→クマが干物になったモグラの死骸を見つけ、おいしそうに食べる。クマは野生でも生きられる。



→6月1日、1人でタケノコを採って帰った行った男が2日後には仲間を連れて3人でやって来た。



ねえ、ほかのお客さんの手前……」

ポツリとそうつぶやいた。

その翌日。六月一日にはどこからはつたのか、ゴルフ場のほうから大きな袋をさげた男の人があらわれた。

「お客さん、あぶないよ。ゴルフ場の中を歩いちゃ」

いきなり声をかけられ、驚いた男は大きな袋を肩にかけて、何もいわずにそそくさと立ち去ると土手の上を川上にむけて去っていった。

六月三日、前日の男がこんどは三人で自転車に乗ってやって来た。この日は土曜日で舟に乗りに来るお客さんも多かったことから、竹藪にはいろいろとする男たちに舟頭さんが、

「タケノコを採るんなら、舟の営業が終わってからそつと来て採ってよ」

そういわれた男たちは、ギクツとして立ち止まると、なにや話していたが竹藪の下手にまわり草をかきわけて竹藪にはいって行った。

バキバキと竹藪を歩きまわる音がこちらにまで聞こえてくる。

「ツたく、しょうがないな」

ポツリと舟頭さんがつぶやく。